



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業

令和7年度感染症危機管理リーダーシップ研修(長期) 研修の様子を紹介

(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部 上級研究員 佐藤 瞳

JIHSでは、厚生労働省委託事業として、公衆衛生行政、医療提供体制、感染症疫学や臨床等に関する専門的な知見や経験を有する既存の多様な職種の感染症専門人材に対し、地域における将来の感染症危機への対応においてリーダーシップを発揮する人材として、感染症危機管理に必要な多様かつ分野横断的な知識やスキルの修得や維持・向上を図ることを目的とした研修を実施しています。今回は、令和7年度4月から開始された長期研修の6月の様子を紹介します。

実践研修:On-the-Job Training(OJT)

感染症危機管理に関わる各関連機関の役割や業務を知り、感染症危機時における分野横断的な調整能力を身につけることを目的として実施

令和7年度研修生の研修記録

- 6/2 感染症アウトブレイク調査の基礎、要約文献検索
- 6/3 要約文献読み込み、今月の研修目的等確認・リスク評価について、EBSについて説明、サーベイランスレビュー
- 6/4 weeklyセミナー「研究の進め方」土橋先生
- 6/5 サーベイランスデータまとめ発表、リスク評価まとめ準備
- 6/9 リスク評価まとめ準備、AFP厚労科研班会議参加、国外EBS準備
- 6/10 国外EBS発表、インドネシアのサーベイランス(JICA)、サーベイランスレビュー
- 6/11 ウィークリースタディ、リスク評価ミニレク
- 6/12 鳥インフルリスク評価予演会、リスク評価まとめ準備、FETP26期長期研究中間発表聴講
- 6/13 リスク評価まとめ準備、数理セミナー
- 6/16 FETP26期中間報告会
- 6/17 3分チャレンジ打ち合わせ、リスク評価まとめ準備、サーベイランスレビュー(3分チャレンジ実施)
- 6/18 ウィークリーセミナー、EHEC事前打ち合わせ、リスク評価中間、NCGM事前面接
- 6/19 リスク評価まとめ準備
- 6/20 リサーチミーティング、リスク評価まとめ準備、EHEC打ち合わせ
- 6/23 リスク評価まとめ準備、J-speed講義
- 6/24 リスク評価最終打ち合わせ
- 6/26 フィードバック会、有事の組織体制 阿南先生
- 6/25 厚労省食中毒研修参加
- 6/27 リスク評価準備、新型インフルエンザ等対策推進会議傍聴
- 6/30 リスク評価まとめ発表、感染症意見交換会

EBS: Event-based surveillance
AFP: acute flaccid paralysis (急性弛緩性麻痺)
EHEC: enterohemorrhagic Escherichia coli (腸管出血性大腸菌)
FETP: Field Epidemiology Training Program (実地疫学専門養成コース)



自治体と実習先では組織としての役割や体制等、異なる部分が多くあります。そのまま自所属自治体に落とし込むことは難しいですが、本当の意味で意見交換ができる環境・関係性づくりは身近な単位から始められることがあると気付くことができました。具体的実践できるのはまだ少し先になりますが、折々で行っている自所属自治体への研修報告の中で触れる等により、現状でもやれることをやっていきたいです。

令和7年度研修生所感より

応用疫学研究センター発表会の様子 日時:6月30日 会場:国立感染症研究所



令和7年度研修生



八幡裕一郎先生(応用疫学研究センター)と令和7年度研修生



島田智恵先生(応用疫学研究センター)

応用疫学研究センターの八幡裕一郎先生、島田智恵先生のご指導のもと、研修生はそれぞれエムボックスとデング熱のリスク評価に取り組み、6月30日の発表会で成果を発表しました。発表会にはオンラインで応用疫学研究センター長の砂川富正先生もご参加くださり、リスク評価の考え方や要点についてご助言をいただきました。

外部講義 「有事の組織管理」 日時:6月26日 会場:AP東新宿

外部講師による感染症危機の事例やリーダーシップに関する講義



講師:阿南英明先生

(地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長)

「有事の組織管理」をテーマとした外部講義を開催しました。講師の阿南先生から、「ダイヤモンド・プリンセス号」において新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生した時、DMAT（災害派遣医療チーム）の指揮官（※厚生労働省臨時検疫官の発令を受けた上での対応）として医療支援を統括された経験や、神奈川県において緊急医療体制「神奈川モデル」の構築、病床確保に関する県と病院の協定締結、スコアによる適正な入院基準の策定に尽力された経験、また、各ステークホルダーと丁寧にコミュニケーションをとることの重要性について語られました。

「全体最適」を見据えたリーダーシップ

「どのようにして課題を設定し、戦略を立て、戦術へと落とし込むのか」という全体的な流れと考え方を学ぶことができました。特に印象的だったのは、現状を俯瞰し、先を見据えた課題設定の視点です。ダイヤモンド・プリンセス号でのアウトブレイクや地域でのパンデミックといった具体的な事例を通じ、課題を構造化し、ベクトル分解していく思考法を体感することができました。また、戦略・戦術をチームで検討し、共有していく体制の在り方についても示唆があり、自組織における体制構築のヒントとなりました。「すべてを解決するのではなく、全体最適を図る」という姿勢が印象的でした。さらに心に残ったのは、「論理で納得し、感情で動く」という言葉です。感情的な抵抗がある場面においても、ステークホルダーと徹底的に対話を重ね、納得と共感を得る努力をされていた姿勢に感銘を受けました。ステークホルダーとの丁寧なコミュニケーションこそが、合意形成と現場の推進力につながることを改めて実感しました。

令和7年度研修生所感より



△令和7年度研修生と阿南先生

◁ 研修生・参加者と阿南先生の集合写真



感染症危機管理対応を行う地域のリーダーシップ人材育成のための

感染症危機管理リーダーシップ研修

厚生労働省委託事業:感染症危機管理リーダーシップ人材育成モデル事業

